

## 国立大学法人 上越教育大学中期目標

### （前文）大学の基本的な目標

上越教育大学は、連合博士課程、修士課程、専門職学位課程及び学士課程を持ち、大学院（現職教員再教育）重点化を目指す大学であり、大学院における現職教員の再教育を行う中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標とする。

この基本的な目標を踏まえ、世界的に不安定かつ流動的な時代にあつて、我が国の伝統と文化を基盤とし、人格に優れ、問題解決の力を備えた、持続可能な社会を創造する人材を育成できる、世界最高水準の初等中等教育教員の養成を行う大学を目指す。

また、学校教育に関する理論的・実践的な研究を行い、その成果を発信するとともに、常に教育改革の世界的潮流を見据え、不断の改革に取り組み、我が国の教員養成のモデルであり続ける大学となることを目標とする。

このため、基礎力・思考力・実践力で構成される「21世紀を生き抜くための能力（汎用的能力）」を備え、かつ児童生徒に対しその能力を育成できる教員を養成する。さらに、教員として、豊かな教養、使命感、人間愛等の「 $+ \alpha$ 」の資質・能力（以下：「21世紀を生き抜くための能力 $+ \alpha$ 」と表記）をも備えた教員を養成するための教育課程の開発・導入を推進することとし、次のとおり第3期中期目標期間における主要目標に掲げる。

- (1) 学士課程においては、系統的な教育実習や、教科及び教職に関する多様な授業科目からなる実践的な教育課程を開発・実践し、「21世紀を生き抜くための能力 $+ \alpha$ 」を備えた教員を養成する。
- (2) 大学院においては、修士課程と専門職学位課程が協働し、より高度な「21世紀を生き抜くための能力 $+ \alpha$ 」を身に付けるための教育課程を開発・実践し、現代的課題の理解と問題解決の方法を修得した、学校づくりの有力な一員となり得る教員及び地域や学校において中核的、指導的役割を果たす教員（スクールリーダー）を養成する。

特に修士課程においては、焦点化した問題の設定と解決の方策を修得した教員を養成する。一方、専門職学位課程においては、学校現場の諸課題を多面的・総合的に捉え解決する力を修得した教員を養成する。
- (3) 教育委員会や学校等と連携・協働して、地域や学校現場が抱える課題の解決に資する取り組み等を行うとともに、教員が教職生活全体を通じて学び続けるための研修拠点としての機能を強化する。
- (4) グローバルな視野を持つ人材を養成するため、カリキュラムを充実するとともに、海外協定校との連携を深め、学生交流及び学術交流を推進する。
- (5) 附属学校と大学が協働し、児童生徒等の「21世紀を生き抜くための能力」を育成する授業研究に取り組み、この成果を教育実習生の「21世紀を生き抜くための能力 $+ \alpha$ 」の育成に活用するとともに、地域の学校現場に還元し、国内外に発信する。
- (6) 学校教育に係る全ての教科はもとより幼児教育、特別支援教育等を含むそれぞれの課程・領域で得られた知見・成果を踏まえた、教育委員会や教育現場との連携による、学校現

場に密接に関連した実践的な教育研究の取り組みなど、本学の強み・特色を活かし、教員養成の質的転換と現職教員の研修機能のさらなる強化に向けて、教育研究組織の見直しを行う。

(7) 学長のリーダーシップの下、全学が一丸となって上記の目標達成に取り組む体制を構築するとともに、改革の進捗状況を含めた大学の運営状況を常に検証し、継続して改革に取り組むことができるようにガバナンス機能を強化する。

## ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

### 1 中期目標の期間

平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。

### 2 教育研究組織

本学は、この中期目標を達成するため、教育研究上の基本組織として、別表に記載する学部及び研究科を置く。

## I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

### 1 教育に関する目標

#### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

○教育課程、教育方法及び教育の成果

(学士課程)

初等中等教育教員の養成を中核に据え、「21世紀を生き抜くための能力+ $\alpha$ 」を備えた教員を養成するためのカリキュラムを編成するとともに、新たな上越教育大学スタンダードを作成することにより、時代や社会の要請に応え得る深い人間理解と豊かな感性・学識、優れた教育実践力を備えた、広範な教育段階に対応できる教員を養成する。

(大学院課程)

[修士課程]

教育現場における焦点化した問題の設定と解決の方策を修得した、高度な専門的能力を持つ多様な人材を養成する立場から、構想力を持った高度専門職業人を養成する。特に、教科及び教職に係る優れた実践的な指導力と研究能力(教科内容構成能力、教材開発能力など)を備えた教員を養成する。

[専門職学位課程]

学校現場の諸課題を多面的・総合的に捉え解決する力を修得した教員を養成するという立場から、即応力を持った高度専門職業人を養成する。特に、確かな指導理論と優れた応用力を備えたスクールリーダー及び学校づくりの有力な一員となり得る実践的な指導力・展開力を備えた新人教員を養成する。

○成績評価等

「21世紀を生き抜くための能力+ $\alpha$ 」の育成に向けた成績評価基準を新たに作成し、厳格な成績評価を実施する。

**(2) 教育の実施体制等に関する目標**

○教職員の配置

教員養成と研修機能の更なる強化・充実に向け、学校教育に関する理論的・実践的な教育研究を推進し、学校現場に密接に関連した実践的な教育を行うため、学校現場での指導経験等を持つ教員を確保する。

○教育環境の整備

学生の主体的・協働的な学修を支援するため、教育環境を整備・改善する。

○教育の質の改善、教育研究システムの改善

ファカルティ・ディベロップメント活動を一層充実・促進し、授業の改善につなげる。

**(3) 学生への支援に関する目標**

修学面及び生活面における充実した学生生活とするために、入学から卒業・修了までの一貫した総合的な学生支援を実施する。

**(4) 入学者選抜に関する目標**

(学部)

「21世紀を生き抜くための能力+ $\alpha$ 」を備えた教員を養成するため、新テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」等の活用を踏まえたアドミッション・ポリシーの見直しを行い、それに基づき、多面的・総合的な評価を重視した個別選抜(大学が個別に行う入学者選抜)を実施する。

(大学院)

「21世紀を生き抜くための能力+ $\alpha$ 」を備えた教員を養成するため、アドミッション・ポリシーの見直しを行い、それに基づき、教職に関する高度な専門性と実践的指導力の修得を目指す学生を受け入れる入学者選抜を行う。

**2 研究に関する目標**

**(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標**

教育に関する臨床的研究とそれを支える基礎的研究並びに学校現場に密接に関連した実践的・先導的な研究機能の強化・充実に図り、国内外の教育界における研究水準をリードする拠点となることを通じて、我が国の教員養成の質的向上と学校現場の課題解決に資する役割を担うとともに、その研究成果を積極的に社会に還元する。

## **(2) 研究実施体制等に関する目標**

教員養成の質的向上や学校現場など地域社会のニーズ並びに現代社会の変化に即した研究を積極的に進め、社会的要請の高い研究課題に対応する研究組織を構築するとともに、その研究支援体制を整備する。

## **3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標**

本学の知的・人的・物的資源を有効に活用し、我が国の教員養成の質的向上と学校現場の課題解決のために貢献するとともに、地域社会の発展への支援と様々なニーズに沿った教育研究・文化事業を実施する。

## **4 その他の目標**

### **(1) グローバル化に関する目標**

国際的な学生交流及び学術交流の推進並びに教育研究の充実を図るとともに、学校及び地域社会等と連携し、グローバルな視野を持った人材を養成するため、「国際交流推進センター」を中心に教育研究活動を推進する。

### **(2) 附属学校に関する目標**

学校教育に関する今日的課題や新たなニーズに応じた教育モデルの開発を目指し、大学と附属学校の緊密な連携・協力の下、地域の教育課題の解決を含め、教育に関する実践的な教育研究を進める。

## **II 業務運営の改善及び効率化に関する目標**

### **1 組織運営の改善に関する目標**

学長のリーダーシップにより、適切な評価・検証に基づき業務運営を行える体制を整備するとともに、ガバナンス機能を強化する。

大学運営に対する社会、特に有力なステークホルダーである教育委員会からの評価や要請を的確に把握するとともに、監事による監査結果や外部評価結果を、組織運営の改善に反映する。

### **2 教育研究組織の見直しに関する目標**

教員養成の質的転換と研修機能の強化・充実を図るため、学習指導要領に対応できる、「21世紀を生き抜くための能力+ $\alpha$ 」を備えた教員を養成するための教育課程の開発に取り組むとともに、平成32年度の改組に向けて教育研究体制の見直しを行う。

### **3 事務等の効率化・合理化に関する目標**

事務組織の編成や業務内容を随時見直すことにより、効率化・合理化を進める。また、事務系職員の資質・能力の向上に努める。

### Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

#### 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

本学の知的・人的・物的資源を活用し、外部研究資金の獲得やその他寄附金等社会からの幅広い支援の拡大について積極的な取り組みを行う。

#### 2 経費の抑制に関する目標

各種業務の効率化・見直し及び選択・集中化を図り、経費を抑制する。

#### 3 資産の運用管理の改善に関する目標

大学運営資金の適切な運用を図るとともに、保有資産の有効活用を推進する。

### Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

#### 1 評価の充実に関する目標

大学運営に係る I R 機能を強化し、これらの情報に基づく定期的な自己点検・評価を行い、その結果を大学運営の改善に活かす。

#### 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

社会に対する大学の説明責任を果たすため、大学運営全般にわたり、社会が求める情報を分かりやすい内容で積極的に発信する。

### Ⅴ その他業務運営に関する重要目標

#### 1 施設設備の整備・活用等に関する目標

施設マネジメント基本方針に基づき、既設施設の有効活用、計画的な維持管理を含めた施設マネジメントを行う。

#### 2 安全管理に関する目標

労働安全衛生法等を踏まえ、快適な修学・就労環境を実現するため、学生等（本学学生、附属学校の幼児・児童・生徒）及び教職員の健康の保持と安全確保に努めるとともに、大学・附属学校において、健康教育、防災教育を重視して安全への意識向上を図る。

#### 3 法令遵守等に関する目標

社会の信頼を確保していくため、学内規則を含めた法令を遵守するための教育を行う。特に、研究費については監事および監査室による内部監査を行い、適正な法人運営を行う。

**別表（学部、研究科等）**

学 部	学校教育学部
研 究 科	学校教育研究科 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 (本学は同連合学校教育学研究科の参加大学である。)